

統合開発環境CS+ ご使用上のお願い

統合開発環境CS+の使用上の注意事項を連絡します。

- ブロックのネストが深いソースコードを記述する場合の注意事項

1. 該当製品

- RXファミリ用C/C++コンパイラパッケージ (統合開発環境つき)
- RL78ファミリ用Cコンパイラパッケージ (統合開発環境つき)
- RH850ファミリ用Cコンパイラパッケージ(統合開発環境つき)
- 無償評価版CS+

上記のうち、CS+ 共通部分がV3.00.00～V3.01.00である製品。

バージョンの確認方法は、以下のURLからご参照ください。

https://www.renesas.com/cs+_ver

2. 内容

デバッグ・ツールへプログラムをダウンロードした場合、またはダウンロード後にエディタ・パネルを開く場合にCS+が強制終了してしまう場合があります。

3. 発生条件

プロジェクトに下記のいずれかの条件に該当するソースコードが存在する場合に発生します。

- (a) 関数内に{}で囲まれたブロックが128以上ネストしている。
- (b) else ifの連続が64以上続いている。
- (c) "else ifの連続数"を2倍した数と、"else ifが連続している箇所内で{}で囲まれたブロックのネスト数"を足した合計値が128以上である。

なお、上記(b)(c)はRXファミリ用C/C++コンパイラパッケージ (統合開発環境つき) でC99オプションを指定している場合にのみ発生します。

4. 回避策

以下のいずれかの方法で回避可能です。

- ソース表示の抑止により回避する方法

発生条件に該当するソースファイルのデバッグ情報オプションを

「出力しない」に変更してください。

ただし、この場合は該当ソースファイルに対するソースレベルデバッグはできません。

オプションの変更方法は、CS+のヘルプの下記を参照お願いします。

[ビルド編]→[機能]

→[個別にビルドオプションを設定する]

→[ファイル単位でコンパイル/アセンブル・オプションを設定する]

- コードのネストを浅くする方法

発生条件を回避するように関数化してください。

以下に 3. 発生条件(b) の変更例を示します。

変更前

```
-----  
void func()  
{  
    if (i == 0) {;}  
    else if (i == 1) {;}  
    else if (i == 2) {;}  
    else if (i == 3) {;}  
    :  
}
```

変更後

```
-----  
void func()  
{  
    if (i == 0) {;}  
    else if (i == 1) {;}  
    else sub(i);  
}  
  
void sub(int i)  
{  
    if (i == 2) {;}  
    else if (i == 3) {;}  
    :  
}
```

- 3.発生条件(b)(c)については、RXファミリ用C/C++コンパイラパッケージ (統合開発環境つき)でC99オプションを指定しないことでも回避可能です。

5. 恒久対策

今後のバージョンで改修する予定です。

[免責事項]

過去のニュース内容は発行当時の情報をもとにしており、現時点では変更された情報や無効な情報が含まれている場合があります。ニュース本文中のURLを予告なしに変更または中止することがありますので、あらかじめご承知ください。

© 2010-2016 Renesas Electronics Corporation. All rights reserved.